

ESMPRO/ACBlade 管理オプション Ver3.1 (Linux 版)

アップデート手順書

目次

第1章	はじめに.....	2
1. 1	機能強化内容	2
第2章	アップデートの適用が必要なバージョン.....	5
2. 1	Management Consoleを使用した確認方法とアンインストール方法	5
2. 2	Management Consoleがない環境の確認方法とアンインストール方法	6
第3章	アップデートの準備.....	7
第4章	アップデート手順.....	8
4. 1	クラスタ環境の場合のクラスタ停止 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象)	8
4. 1. 1	Management Console を使用した場合	8
4. 1. 2	Management Console がない環境	9
4. 2	Updateの適用	10
4. 2. 1	Management Consoleを使用したUpdate.....	10
4. 2. 2	Management Consoleがない環境のUpdate.....	12
4. 3	クラスタ環境の場合のクラスタ再開 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象)	13
4. 3. 1	Management Console を使用した環境の場合	13
4. 3. 2	Management Console を使用しない環境の場合	14
4. 4	更新・追加ファイル一覧	15
第5章	ACBE Updateの注意事項	16

第1章 はじめに

この手順書は 以下の製品に対応したアップデートの手順書です。

ESMPRO/ACBlade管理オプション (Linux版) Ver3.1 UL4008-004

1. 1 機能強化内容

項番	機能強化内容
1	ESMPRO/DeploymentManager ver2.0に対応しました。
2	Express5800/420Ma、iExpressシリーズに対応しました。 (システム構成内にExpress5800/420Ma, iExpress5800が含まれる場合、システム構成内の制御端末／連動端末に Update適用 が必要となります。) <Update適用が必要な機種> Exprss5800/400シリーズ (420Ma以外も含む)、iExpress5800シリーズ
3	AC Management Console機能の強化。 ・AMC起動時は、第1階層の電源制御グループのみをツリー表示するように改善。 ・サーバ/UPSの稼動状態、設定情報をCSV形式のファイルに出力する機能を追加。
4	ESMPRO/AC GUIの機能改善 ・ハッピーマンデー対応 (海の日、敬老の日) ・スケジュールのグラフィック表示において「週」の文字の左端が欠ける場合がある件を修正
5	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 Red Hat Linux 7.3 Miracle Linux Standard Edition Version2.1 Red Hat Linux Advanced Server 2.1 poweredby MIRACLE
6	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3
7	ESMPRO/AC GUIの機能強化 ・リポート設定の複数曜日登録に対応 ・スケジュール作成後、反映漏れを防止するための警告メッセージを追加 ・監視要因等、各メニューをOKで終了した場合、反映漏れを防止するための警告メッセージを追加 ・監視要因メニューを終了したときに、投入要因・切断要因のメッセージを表示する ・ヘルプファイルにトラブルシューティングの項を追加
8	AC Management Console機能の機能強化 ・UPS装置によって、バッテリー温度監視しきい値の初期表示を変更 ・UPSのSNMP設定情報のリスト表示対応。 (「SNMP設定情報の採取」を行うことでUPSが持つ設定パラメータのリスト表示が可能になります)

	<ul style="list-style-type: none"> ・SNMP設定情報の採取、情報の上書き時に失敗した場合にメッセージを表示。 ・AMCからサーバ接続する場合にhostsファイルへサーバ名、IPアドレスを登録することで名前解決に対応 ・グループポリシー情報変更時、関連するグループのグループポリシーを一括変換する。 ・サーバ情報画面を閉じた直後にAPエラーが発生する場合がある件を修正。 ・タイトルバー表示から Enterpriseを削除。 ・SNMP設定情報の採取ボタン、情報の上書きをSNMPで実行ボタンを押下後、処理が完了するまで、砂時計を表示させる。 ・通信コードの設定が即時に有効にする。 ・SNMP通信時のデータタイプ： ASN_RFC1155_IPADDRESS のパターン処理追加 ・「SNMP設定情報の採取」を行うことで電源異常確認時間等の設定値が元に戻る件修正 ・Windows Server2003環境でSNMPアクセスの性能向上 ・BladeServerに対して、Advance Option modeのチェックを操作すると、リモート起動用の設定が削除される場合がある件修正 ・ブレードサーバ構成編集画面をキャンセルで終了した場合も、AMC画面を起動するように修正 ・AMC画面からサーバシャットダウン操作を行った後の画面切り替え処理の性能向上
9	管理オプション画面から、情報検索により取得したWindowsサーバのコンピュータ名を、大文字に自動変換してAMC情報に登録するように改善。
1 0	AC Management Console機能の機能改善。 AMC画面からサーバシャットダウン操作を行った後の画面切り替え処理の性能向上。
1 1	GUI画面からスケジュール設定操作を行った場合に、適切な設定操作が行われなければ、スケジュール情報が正しく設定されていないことを示すように、画面表示処理を改善。
1 2	Express5800/120Ba-4, 110Ba-e3 のブレードサーバ電源制御機能対応。
1 3	AC Management Console機能の強化（無停電電源装置5000VA対応）。 <ul style="list-style-type: none"> ・オプション設定画面を追加。 ・電源装置メニューに表示する UPS パラメータのデフォルト値の見直し。 ・電源装置メニューの「情報の上書きをSNMPで実行」の処理の改善。
1 4	リモートUPS制御コマンド（ac_e_ups.exe）のON要求処理の改善。
1 5	ESMPRO/AC GUI HELP のスケジュール作成例の日付を更新。
1 6	<p>ESMPRO/AC GUIにて次のようなスケジュールが登録されたシステムに、 （ACスケジュール） 04年12月30日 運用休止 通常 10:00から18:00まで</p> <p>後から、下記スケジュールを追加登録した場合に、 04年12月27日 10:00から 04年12月28日 02:00まで 04年12月28日 10:00～18:00のスケジュールを有効にする様修正。</p> <p>また、このようなスケジュールが登録された場合に、04年12月28日 10:00～18:00 を無効にする場合は、 04年12月28日 運用休止 を登録してください。</p>
1 7	AC Management Consoleのヘルプにおいて、「電源装置管理情報」のパラメータを修正。 AMCヘルプ目次 →設定画面 →電源装置管理情報

	<p>※画面上の「SNMP設定情報」の各種値は推奨値です。 UPSの設定の際に参考値としてご利用ください。</p>
1 8	AC Management Consoleの「電源装置」ダイアログで「情報の上書きをSNMPで実行」を行った際に「電源異常検出感度」が設定できない問題の修正。
1 9	管理オプション画面から対象サーバを追加した場合のラック番号規定値を255->1へ変更。
2 0	<p>新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 ＜新規サポート＞ Miracle Linux Standard Edition Version 3 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4</p>
2 1	AC Management Console 起動時に、アプリケーションエラーが発生する場合がある問題を修正。
2 2	AC Management Consoleの「オプション」メニューにおける「リモートウェイクアップ」の「起動要求開始待ち合わせ時間」最大値を1500秒へ変更。
2 3	<p>新OS対応 以下のOSを新規にサポートする。 ＜新規サポート＞ SUSE Linux Enterprise Server 10/11</p>

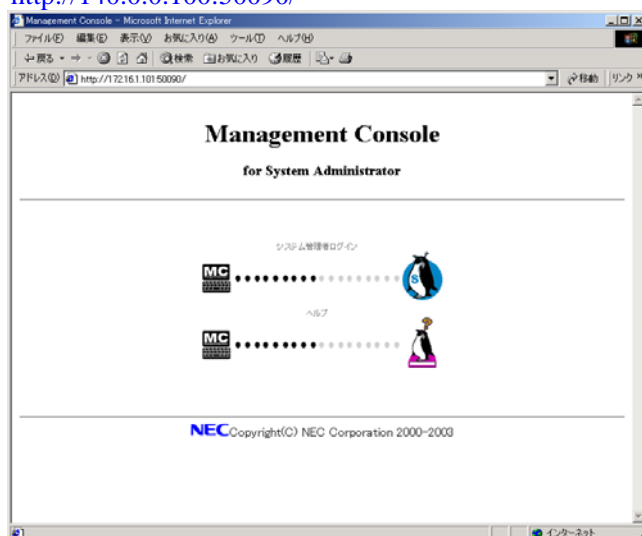
第2章 アップデートの適用が必要なバージョン

以下の手順でサーバの ESMPRO/ ACBlade 管理オプション (Linux 版) Ver3.1 (以下「ACBE」と称します) のバージョンを確認してください。

2. 1 Management Consoleを使用した確認方法とアンインストール方法

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>

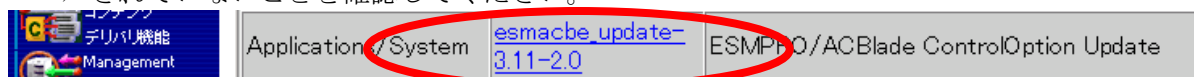


※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行って下さい。

- (2) 以下の手順でACBEのUpdateのバージョンを確認します。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③「パッケージ一覧」で、「esmacbe_update-3.1x-1.0」を探し、**3. 1 5**以上がインストールされていないことを確認してください。



- (3) 以前のUpdateが既にインストール済みの場合、以下の手順で以前のバージョンを削除して下さい。

- ①上記の「パッケージ一覧」で、「esmacbe_update-3.1x-1.0」を選択します。
- ②表示中の「アンインストール」を選択すると、削除されます。

- ③ 「パッケージ一覧」で、「esmacbe_update-3.1x-1.0」を探し、アンインストールされていることを確認してください。

2. 2 Management Consoleがない環境の確認方法とアンインストール方法

コマンドラインからACBEをインストールする場合、以下の例のようにパッケージ依存性のエラーが発生しインストールに失敗することがあります。

(Red Hat Enterprise Linux ES/AS 3環境でのエラーメッセージ例)

エラー: Failed dependencies:

libdb.so.2 is needed by esmacbe-3.1-1.0

libnewt.so.0.50 is needed by esmacbe-3.1-1.0

libslang.so.1 is needed by esmacbe-3.1-1.0

Suggested resolutions:

compat-slang-1.4.5-5.i386.rpm

gnome-libs-1.4.1.2.90-34.1.i386.rpm

上記のようにパッケージ依存性のエラーが発生した場合には、rpmコマンドの引数に「--nodeps」オプションを付加してインストールを実施してください。

```
# rpm -ivh --nodeps rpm パッケージ名
```

(1) サーバにrootでログインします。

(2) rpmコマンドを実行します。

```
rpm -q esmacbe_update
```

rpm の実行結果が表示されます。

実行結果を確認し、**3. 1 5**以上のバージョンがインストールされていないことを確認してください。

(rpm コマンドの実行結果の例 1)

```
package esmacbe_update is not installed
```

(rpm コマンドの実行結果の例 2)

```
esmacbe_update-3.11-1.0
```

(3) インストールされている場合、rpmコマンドを使用して削除します。

```
rpm -e esmacbe_update
```

第3章 アップデートの準備

ダウンロードしたファイルを解凍すると、以下のファイルが作成されます。

ファイル名	内容
ESMACBE-31LX-UP201011.pdf	アップデート手順書 (PDFファイル)
Linux¥esmacbe_update-3.15-1.0.i386.rpm	アップデート用rpmファイル (Linuxモジュール) <注意> モジュール対応表を参照して、適用対象の機種によってモジュールを使い分けてください。
Linux¥esmacbe_update-3.15-2.0.i386.rpm	

下記のモジュール対応表の情報をもとに、Linux フォルダ下にある RPM ファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体または NFS 等を経由して、対象の Linux サーバにコピーしてください。

<モジュール対応表>

	50	100	300	400				iExpress 5800
				410Ea	410La	420Ma	その他	
esmacbe_update-3.15-1.0.i386.rpm	—	○※1	—	○	○	○	—	—
esmacbe_update-3.15-2.0.i386.rpm	○	○※2	○	—	—	—	○	○

※1 Express5800/BladeServer シリーズにおける 120Ba-4、110Ba シリーズの場合

※2 SIGMABLADE シリーズ(B120a、120Bb-6 等)

(機種)

410Ea	N8400-001, 009A
420La	N8400-003, 012A, 012P01
420Ma	N8400-013A, 013AP01, 014A, 014P01
iExpress5800	NP8400-1000P01, 1000P02, 1000P03

(注意)

Linux 版モジュールの Update において、esmacbe_update-3.15-2.0.i386.rpm を使用すると ESM/PRO/ACBE のセットアップ時には、手動によるパラメータ入力が必要です。

<対象となるブレードサーバの情報>

ブレード収納ユニット番号
スロット番号 MAC アドレス

第4章 アップデート手順

ESMPRO/ACBlade 管理オプションがインストールされた Linux サーバに本アップデートを適用する手順を説明します。なお、ここではアップデートモジュール (esmacbe_update-3.15-2.0.i386.rpm) をフロッピー媒体にコピーした場合を例に説明します。

4. 1 クラスタ環境の場合のクラスタ停止（CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象）

Update を行う環境に CLUSTERPRO for Linux がインストールされている場合には、以下の手順で一旦 CLUSTERPRO を停止させてください。

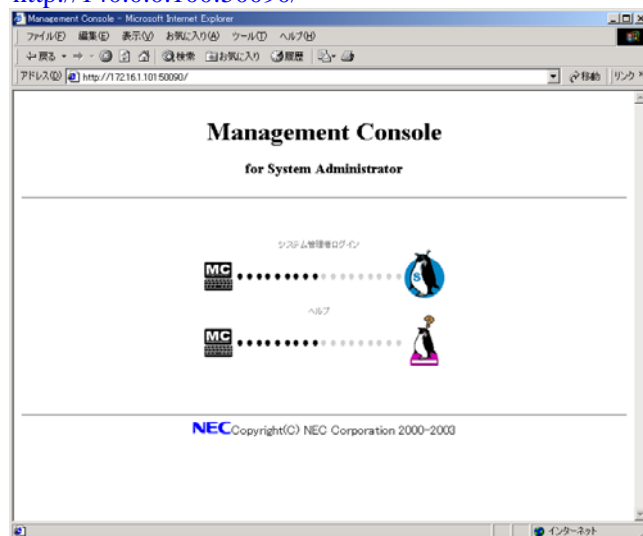
その後、ACBE の Update を行ってください。

※CLUSTERPRO Ver3.0 以上またはCLUSTERPRO X 1.0 以上の場合、本手順は不要です。「4. 2 Updateの適用」へ進んでください。

4. 1. 1 Management Console を使用した場合

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。（インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合）

<http://140.0.0.100:50090/>

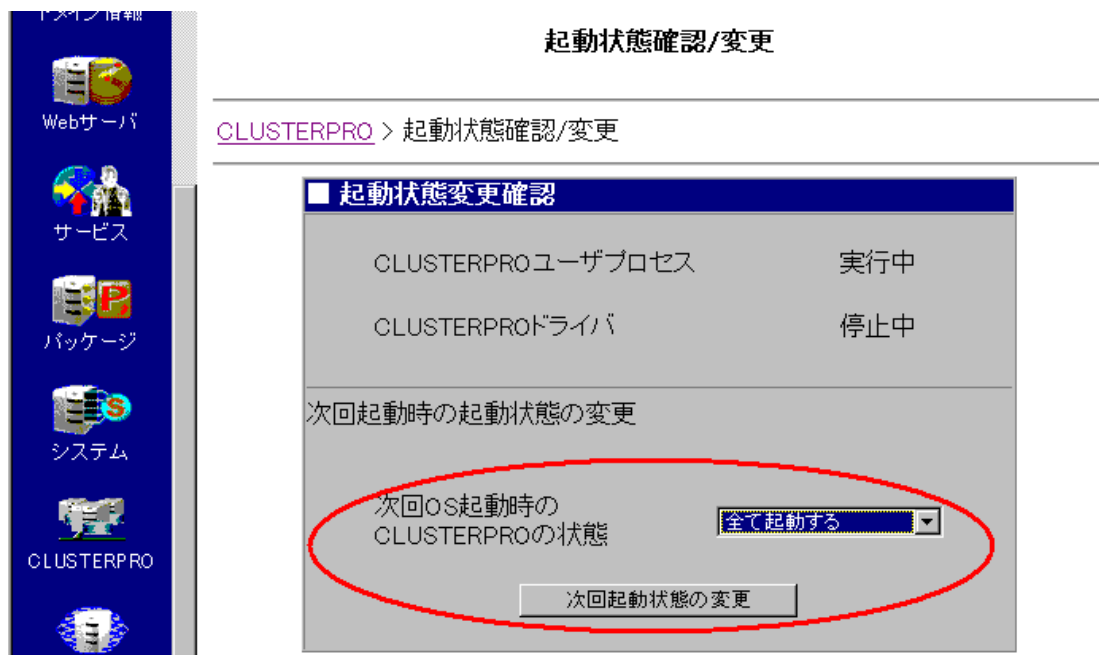


※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

(2) 以下の手順でCLUSTERPROの起動状態設定を変更してください。

- ①左側の「CLUSTERPRO」を選択します。
- ②「CLUSTERPRO」で「起動状態確認／変更」を選択します。
- ③「起動状態確認／変更」で、「次回OS起動時のCLUSTERPROの状態」を「全て起動しない」を選択します。
- ④「次回起動状態の変更」ボタンを選択します。



(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、CLUSTERPROマネージャからシステムの再起動を行ってください。

4. 1. 2 Management Console がない環境

- (1) root でログインしてください。
- (2) 以下のコマンドで、クラスタの次回起動時の起動状態を変更してください。

`/etc/clusterpro/armstartup -manual`

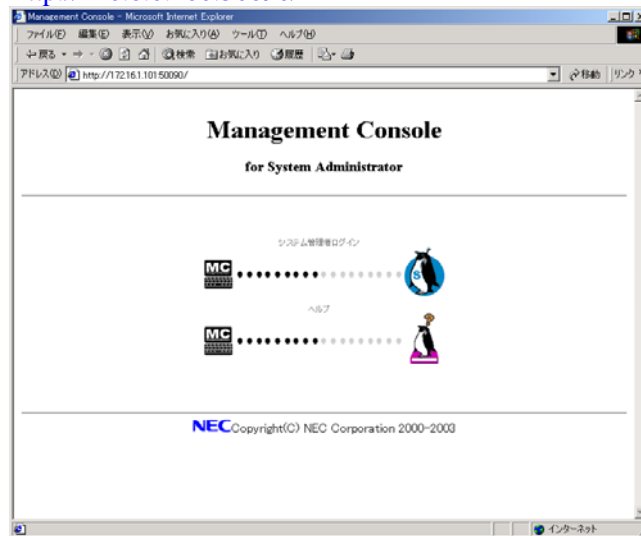
(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、CLUSTERPROマネージャからシステムの再起動を行ってください。

4. 2 Updateの適用

4. 2. 1 Management Console を使用した Update

- (1) ファイル (esmacbe_update-3.15-x.0.i386.rpm) をコピーしたFD媒体をインストールするLinuxサーバのFDドライブに挿入します。
- (2) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>



※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行って下さい。

- (3) 以下の手順でFDをファイルシステムにマウントしてください。
①左側の「ディスク」を選択し、「/dev/fd0」の「詳細」を選択します。



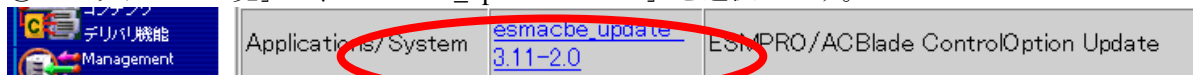
■ ディスク一覧			
	デバイス名	総容量 (MB)	パーティション数
詳細	/dev/hda	19128	4
詳細	/dev/cdrom	-	-
詳細	/dev/fd0	-	-

②

「接続」ボタンを選択し、「接続中」になったことを確認します。

(4) 古いUpdateが適用されている場合には以下の手順で削除してください。

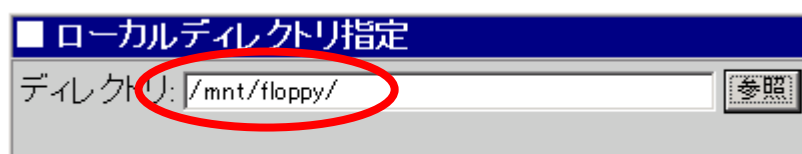
- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③「パッケージ一覧」で、「esmacbe_update-3.1x-x.0」を選択します。



- ④表示中の「アンインストール」を選択すると、削除されます。
- ⑤「パッケージ一覧」で、「esmacbe_update-3.1x-x.0」を探し、アンインストールされていることを確認してください。

(5) 以下の手順でACBEのアップデートを行います。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」→「手動インストール」を選択します。
- ③「手動インストール」で、「ローカルディレクトリ指定」に「/mnt/floppy」と入力して「参照」ボタンを選択します。



- ④FDにコピーされた「/mnt/floppy/esmacbe_update-3.15-x.0.i386.rpm」が表示されます。Updateの対象となるサーバによって、あらかじめファイルを選択してください。インストールするファイル名に誤りがないことを確認してから「追加」ボタンを選択します。



- ⑤「追加」を選択すると「インストールしてもよろしいですか？」と表示されますので、「OK」を選択してください。

(6) ACBEが、アップデートされたことを確認します。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③「esmacbe_update-3.15-x.0」があることを確認します。

(7) 「/dev/fd0」の「切断」を実行してください。

- ①左側の「ディスク」を選択します。
- ②「/dev/fd0」の「切断」を選択します。

(8) 「Management Console」を終了してください。

4. 2. 2 Management Console がない環境の Update

(1) ファイル (esmacbe_update-3.15-x.0.i386.rpm) をコピーしたFD媒体をインストールするLinuxサーバのFDドライブに挿入します。

(2) root でログインしてください。

(3) FD をマウントします。

```
mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy
```

(4) 以前のUpdateがインストールされているか確認し、インストール済みの場合には、アンインストールします。

```
rpm -q esmacbe_update
```

rpm の実行結果が表示されますので、実行結果を確認し、3. 1 5未満の場合には以下のコマンドでアンインストールします。

```
rpm -e esmacbe_update
```

(5) rpmコマンドを使用してインストールします。(適用する機種によってファイル名の指定を変更ください。)

```
esmacbe_update-3.15-1.0.i386.rpm  
esmacbe_update-3.15-2.0.i386.rpm
```

```
rpm -ihv --nodeps /mnt/floppy/esmacbe_update-3.15-x.0.i386.rpm
```

(6) FD をアンマウントします。

```
umount /dev/fd0
```

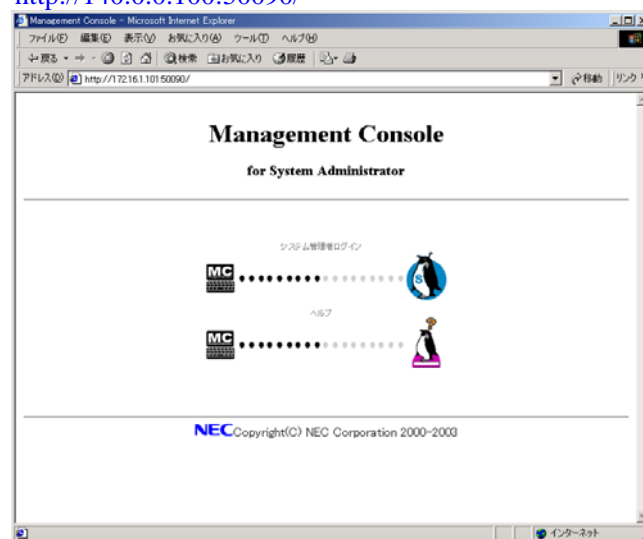
4. 3 クラスタ環境の場合のクラスタ再開（CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象）

「4. 1 クラスタ環境の場合のクラスタ停止（CLUSTERPRO Ver3.0 未満が対象）」にてCLUSTERPROを停止させた場合、Updateを行った後にCLUSTERPROを再開させてください。

4. 3. 1 Management Console を使用した環境の場合

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。（インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合）

<http://140.0.0.100:50090/>

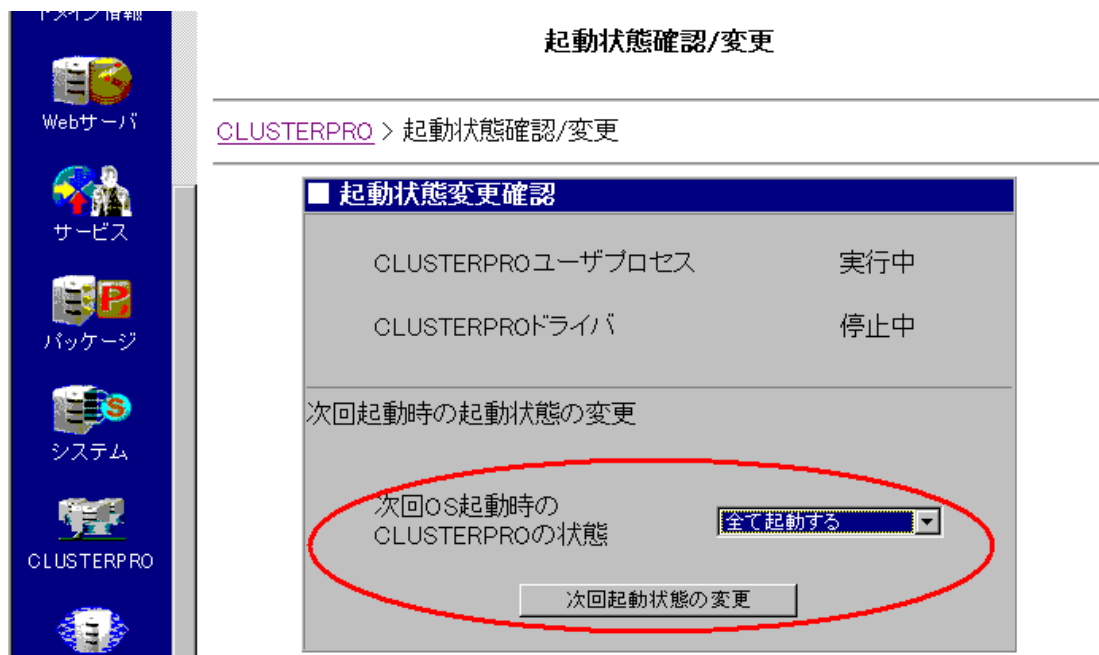


※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行って下さい。

(2) 以下の手順でCLUSTERPROの起動状態設定を変更してください。

- ①左側の「CLUSTERPRO」を選択します。
- ②「CLUSTERPRO」で「起動状態確認/変更」を選択します。
- ③「起動状態確認/変更」で、「次回OS起動時のCLUSTERPROの状態」を「全て起動する」を選択します。
- ④「次回起動状態の変更」ボタンを選択します。



(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、システムの再起動を行ってください。

4. 3. 2 Management Console を使用しない環境の場合

- (1) root でログインしてください。
- (2) 以下のコマンドで、クラスタの次回起動時の起動状態を変更してください。

```
/etc/clusterpro/armstartup -auto
```

(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、システムの再起動を行ってください。

4. 4 更新・追加ファイル一覧

■/usr/local/AUTORC/

-rwxr-xr-x 1 root root 179622 2月 2 2006 libacipmi.so.1

■/opt/nec/wbmc/adm/service/ESMPRO_AC/

-rwxr-xr-x 1 root root 6089 11月 8 10:01 not_use_sa.cgi

第5章 ACBE Updateの注意事項

- (1) Linux 版モジュールのUpdateにおいて、esmacbe_update-3.15-2.0.i386.rpmを使用するとESMPRO/ServerAgentから以下のパラメータを読み取りません。このため、ESMPRO/ACBEのセットアップでは、手動によるパラメータ入力が必要です。

<ブレードサーバの位置情報>

ラック番号

ブレード収納ユニット番号

スロット番号

- (2) 本Updateの適用手順はExpress5800/BladeServerで外部記憶媒体としてフロッピーが利用できることを前提にUpdate手順を記載しています。フロッピーが利用できない場合には、USBメモリ等の他の外部記憶媒体、またはftp、NFSなどを利用してExpress5800/BladeServerにファイルの転送を行ってください。その後の手順は同様の手順で可能です。
- (3) 本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。
- (4) LinuxモジュールのUpdateを行った後には、OSの再起動または、AC for Linuxのサービス再起動が必要です。

(SUSE Linux Enterprise Server以外の場合)

/etc/rc.d/init.d/esmarcsv stop

/etc/rc.d/init.d/esmarcsv start

(SUSE Linux Enterprise Server の場合)

/etc/init.d/esmarcsv stop

/etc/init.d/esmarcsv start

- (5) 本Update適用後のACBE のアンインストール方法について

①Linux モジュールのアンインストール方法

Linux サーバへ本 Update 適用後、ACBE のアンインストールを行う場合、ACBE のアンインストール手順だけでは、Update モジュールの削除ができません。このため、Update 後にアンインストールを行う場合、

a) ACBE Update

b) ACBE

を別々にアンインストールする必要があります。

また、この際には ACBE Update を以下の手順で先にアンインストールしてください。

a) ACBE Update のアンインストール方法

<ManagementConsole を使用したアンインストール>

→ 「パッケージ」

→ 「インストールされているパッケージの一覧」

→ 「esmacbe_update-3.1x-x.0」

→ 「アンインストール」

<ManagementConsole がない環境のアンインストール>

rpm -e esmacbe_update

b) ACBE のアンインストール方法

ACBE のセットアップカードを参照ください。

②Windows モジュールのアンインストール方法

Windows モジュールのアンインストールに関しては、ACBE のセットアップカードに記述した手順で Update も含めたアンインストールが可能です。

- (6) システム構成内に、Windows制御端末 (ESMPRO/AC + ESMPRO/AC Enterprise) が存在している場合には、Windows制御端末にも Update が必要です。
(ESS RL2002/06 以降のRURまたは、Update ESMARC-032-00C以降 の適用が必要)

- (7) コマンドラインからACBEをインストールする場合、以下の例のようにパッケージ依存性のエラーが発生しインストールに失敗する場合があります。

(Red Hat Enterprise Linux ES/AS 3環境でのエラーメッセージ例)

エラー: Failed dependencies:

libdb.so.2 is needed by esmacbe-3.1-1.0

libnewt.so.0.50 is needed by esmacbe-3.1-1.0

libslang.so.1 is needed by esmacbe-3.1-1.0

Suggested resolutions:

compat-slang-1.4.5-5.i386.rpm

gnome-libs-1.4.1.2.90-34.1.i386.rpm

上記のようにパッケージ依存性のエラーが発生した場合には、rpm コマンドの引数に「--nodeps」オプションを付加してインストールを実施してください。

```
# rpm -ivh --nodeps rpm パッケージ名
```